

科目名	地域経済論Ⅱ		担当教員	伊藤 薫	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	EI2ECA310
期待される学修成果	社会事情に対応する応用力				
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	(空白)				
実務経験を生かした授業内容	(空白)				
到達目標及びテーマ	到達目標：本講義はいわば「地域政策論」である。地域経済論Ⅰをベースにして、地域の発展あるいは活性化を実現するためには、どのような方策を取ったらいかを具体的に考える。そこで本講義の到達目標は、1) 多数の成功事例から、発展する地域の共通の要因を理解し説明できる、併せて2) 受講生の自由に選択する地域について課題レポート3を書いて提出できる能力をつける、ことである。テーマ：地域の発展方策を考えること。				
授業の概要	講義の内容は、①岐阜県を中心に地域発展の具体例を多数説明するので、発展する地域の共通の要因を理解し、地域の発展方策を考えること、②受講生の好きな地域について課題レポート3を書き、地域経済論Ⅰの学習内容と①の具体例を参考にその地域の発展方策を考えること、である。課題レポート3の書き方は説明する。また基礎データも提供する。この講義を通じて、受講生は各自で選択する地域の地域探究をしてほしい。課題レポート3を提出しない場合は、単位を与えられない。講義中にしばしば質問をすることで積極的に講義に参加してほしい。なお地域経済論Ⅰの受講がこの地域経済論Ⅱの前提である。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション：講義の進め方、課題レポート3の内容説明
第2回	地域発展の判定基準と政策（復習）：テキスト第10章の復習（特に「移出」の重要性）
第3回	ケーススタディA1：岐阜県の発展と現状（復習）、グラフの読み方、分析方法の説明
第4回	ケーススタディA2：愛知県の発展と現状、グラフの読み方、分析方法の説明
第5回	ケーススタディB1：工場・事業所の誘致育成（岩手県北上市） なお以下のケーススタディの具体例は、変更することがある。
第6回	ケーススタディB2：工場・事業所の誘致・育成（岩手県花巻市）
第7回	ケーススタディB3：工場・事業所の誘致（大垣市ソフトピア）、まとめ
第8回	ケーススタディC1：商店街・中心市街地の活性化（名古屋大須商店街）
第9回	ケーススタディC2：商店街・中心市街地の活性化（岐阜市玉宮通り商店街）
第10回	ケーススタディC3：商店街・中心市街地の活性化（滋賀県長浜市の黒壁地区）、まとめ
第11回	課題レポート3の書き方の説明とデータ提供
第12回	ケーススタディD1：観光開発・地域資源のPRの成功（岐阜県高山市）
第13回	ケーススタディD2：観光開発・地域資源のPRの成功（岐阜県各務原市の各務原キムチ）
第14回	ケーススタディD3：観光開発・地域資源のPRの成功（伊勢志摩バリアフリーーツアーセンター）
第15回	総まとめ：発展地域の共通要因の検討（受講生全員によるディスカッション）

事前学修	2時間	ケーススタディAについては、配布資料を事前に調べておくこと。ケーススタディBからDについては、事前にWebページで調べておくこと。いずれも地域活性化について有名な事例である。
事後学修	2時間	毎回、各講義の内容を確認・整理して、工業・事業所、商店街・中心市街地、観光開発・地域資源のPRの成功の、それぞれの共通要因を各自でまとめておくこと。
フィードバックの方法	課題レポートは完全ワープロ仕上げ5ページ以上と長文で、内容が難しい。そこで取材の仕方を含め、質疑応答を通じて理解を深める。質問を受け付けるので、積極的な質問を歓迎する。	

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
毎回、講師の作成した資料を提供する。	伊藤薫	なし	なし	なし
参考資料	黒田達朗・中村良平・田淵隆俊、2008、『都市と地域の経済学 [新版]』、有斐閣、ISBN番号 978-4-641-18371-1			

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	40%	1) 基本用語・成功事例の理解を試す問題、2) 成功の共通要因の理解を試す問題を出题する。
レポート	30%	1) 構成と、2) 地域の成長の評価・理由を、評価する。3) 取材をした場合には、高く評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	毎回、資料の音読、質疑応答を何度もするので、その解答レベルと参加度により評価する。